

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	佐伯 香織
所属機関名	獣医学部 獣医保健看護学科
職位	准教授
在籍年	6 年

教育の責任

獣医保健看護学科に所属し、愛玩動物看護師国家資格に関わる専門教育科目を主に担当している。担当科目には、動物看護学概論、動物臨床看護学総論、獣医療コミュニケーション、臨床系の実習、卒業研究などがあり、動物医療で求められる実践的な知識はもちろんのこと、適切かつ人も動物も安全な技術の習得を重視している。プレゼミナールや卒業研究では、学生が自己表現できる力や他者との協働を大切にし、社会人として求められる責任感とリーダーシップを育むことを意識している。また、準正課活動（災害時同行避難プロジェクト）や正課外活動（吹奏楽愛好会顧問）を通して、学生が地域社会とのつながりを深めることができるようサポートしている。

教育の理念

① 「知識を持つ人」ではなく、「知識を活かせる人」を育てる

動物看護の現場では、教科書通りにいかないことが多いため、学んだ知識や技術を状況に応じて活かし、自分の頭で考え、判断できる力を身に付けてほしい。

② 失敗も成功もすべて「経験値」に変える

現場では、成功だけでなく失敗も大きな学びとなる。ただし、学ぶ姿勢がなければ、それはただのミスになる。だからこそ、失敗した時に「なぜそうなったのか」「次はどうするか」を考える視点を持たせ、経験を積み重ねる力を持ってほしい。

③ “ずっと学び続ける人”を育てる

動物医療は日々進化しているため「今ある知識」に満足せず「もっと良い方法があるのでは？」と考えられる、探究心のある専門職を育てる。

教育の方法・方針

① 実践的な学びを重視する

実際の動物看護現場で必要とされる技術や判断力を養うために、実際の症例を基にしたグループディスカッションやロールプレイ、プレゼンテーションを行い、問題解決能力を高めるとともに、自己評価と他者評価を踏まえて、学生自身が自分の強みや改善点を認識できるようにしている。また教員に質問しやすい雰囲気作りも意識している。

② 視覚的教材を積極的に使用する

講義や実習の中で、写真や動画など視覚的な教材を多用し、学生が直感的に理解できるようにしている。これまで動物と接する機会がなかった学生も多いこと、さらには動物も多様であることから、言葉のみでは伝わらないことも増えている。そのため、実際の症例や手技を撮影した動画やイラストを使用して抽象的な概念を具体的に伝えるようにしている。例えば、動物の体調や状況、行動に関するパターンを動画で示し、その前後や違いを比較することで、実際

の状況に即した判断力の育成に繋げている

③ 復習と穴埋め問題による学習強化

授業の冒頭で前回の授業内容を復習し、穴埋め問題を提示することで学生が学んだ内容を再確認できるようにしている。回答と解答は異なる色のペンで記入するよう指示し、視覚的にどこで理解が不十分だったのかを明確にすることで、自己認識を深めることができる。この方法により、復習の効果が高まり、学生が自分の理解度を可視化できるようにしている。

④ 観察力を育む視覚ゲーム

動物看護の基本である「観察」を重視した授業では、学生が観察力を高めるために視覚ゲームを導入している。このゲームでは、動物の状態や行動に関するイラストや図を用い、学生同士異なる視点からの解釈を共有することで、観察結果の多様性を実感させる。動物看護は正解が一つでないことを認識してもらい、視点を広げる力を養うことを目的としている。

教育の成果

授業アンケートでは、この分野への理解、興味・関心への回答が最も多いが、この分野と他分野との関連性についての理解や、教員に質問しやすいといった項目も多数評価を得ている。自身の授業方針に関して言えば、「ペアワークやグループディスカッションがあって意見交換できてよかった」、「動物看護をする中で、どのように動物と接するべきなのか、どのようなことを大事にするべきなのか、などということを学ぶことができた」、「動物看護師の仕事を実践できる内容が、経験になる上に難しさを知れたため、特に楽しかった」、「将来、就職したとき役立つ知識を身につけることができ、よかった」、「動物看護とはなんなのかについて、改めて考えることができた。動物看護には正解がないと知ったので、これから自分なりの動物看護の正解を見つけていけたらいいなと感じた」、「授業の最後に、実際にある事柄について自分で考えて文章で表すということが授業の内容をより理解することにつながった」、「実際に授業中に、クイズみたいなものを行ったことがとてもよかったと思いました」等のコメントを得ており、少なくとも自身の授業方針は学生達に伝わっていると感じている。

今後の目標

① フィードバックの強化と質向上

学生自身が考えたことや失敗してしまったことなどに対してフィードバックを強化・個別対応することで学生一人ひとりの学びの特性に合わせたサポートを行う。

② 現場との連携

現場の愛玩動物看護師や先輩（卒業生）と連携し、実際の経験を学生に提供する場を設け、リアルな状況に即した学びを促進する。

③ 研究発表の指導・支援

学会にて卒業研究等の内容を学生が発表できるように指導・支援を継続する。

根拠資料

2023 および 2024 年度授業アンケート